

男女がともに 輝くために

共に輝くみほの会
—美浦村女性行政推進協議会—

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)209

コロナ禍のいま

松山和子

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、私たちの生活環境は大きく変化しました。

子どもたちは、臨時休校により自宅学習やリモート授業の日々が続ぎ、友達と会えない、遊べない毎日を耐えました。休校が明けてからも、学校行事の規模縮小や中止が続き、当たり前と思っていた学校生活を当たり前前に送ることができませんでした。また、多業種にわたり在宅ワークが導入され、営業自粛や休業も続きました。長期にわたる外

出自粛要請もあり、良くも悪くも在宅時間がただただ増える一年でした。

そんな中、新たな家事が生じ負担に感じている方もいるかと思えます。一部ではそのストレスから、DV(ドメスティック・ヴァイオレンス)、虐待、ネグレクト(育児放棄)など、家庭外からは見えにくい問題が増えていると言われています。自分の身近で起きているとは思いたくないことですが、何が起るかわからない日々です。被害者にも加害者にもならないよう、今一度、意識を高めたことです。

コロナ禍のいま「誰ひとり取り残さない」ことを目指すSDGs(持続可能な開発目標)をもう一度考え、小さなことから取り組んでみてはいかがでしょうか。

グテーレス国連事務総長はこのコロナ危機を「経験したことのない、地球規模の健康危機として始まり、急速に経済や社会、人類の危機となった」と位置づけています。対策として「人権の尊重を中心に据えること」、「死亡率の高

い高齢者に格段の配慮をすること」、「障害者の権利を十分に確保すること」などを呼びかけています。深刻な影響を受けやすい人として女性や子どもを挙げています。女性については「全世界で家庭でも、経済全体でも、不当に大きな負担を強いられている」とし、子どもについては「感染前から世界の子どもの半数近くが栄養を給食に頼っていた。すべての子どもが食料を手に入れば平等に学べるようにしなければならぬ」としています。

メディアからは「感染対策」、「感染リスク」、「自粛規制」、「クラスター」、「PCR検査」など、今まであまり聞いたことがない言葉が聞こえてきました。正しい情報と間違った情報が錯綜しています。自らの身を守り、大切な人と共に安心して過ごせるよう行動したいものです。

美浦村女性行政推進協議会(共に輝くみほの会)では、活動を共にできる会員を随時募集しています。

問合せ 企画財政課



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び「野・焼」(一字以上詠み込み)

すべて焼かれたあの東京に二度も五輪の花が咲く
花が終れば野良着に替えて田打ち畑打ち身がしまる
畦に菜の花野焼きの匂い五感潤す郷の春
焼いたすめるの匂いも空し自粛らしいコップ酒
聖火見守る無言の拍手野辺のつくしも背を伸ばす
野焼きさされても根を張り耐えてすらり首出すつくしの子
野良着纏わる疾風の威力田畑差し込む陽の光
牛が草食む川面の雲を乗せてゆっくり野辺の春
ぶりの塩焼き見た目は地味で添えた菜花でのどが鳴る
春の川べり野焼きも終わり土手はたんぼすみれ咲く
コロナ騒ぎも何処吹く風と野草摘んでる母娘連れ
里の炭焼小風に煙る山の桜も舞い踊る
山の夕焼け茜に染めて藍を残して落ちてゆく
恐るコロナ禍両親供養花野うららかな春彼岸
今日も明日も野焼はつづく鼻毛焦がして大笑い
祖母が焼芋焼いてはそつと孫の靴にしのぼせる
孫と一緒にクッキー焼いて話はずんだティータイム
焼いたスルメをくちやくちや噛んで今日も韓ドラ夜が来る
春はうららで野点のお茶をほめてくれたね好月さん
野芹口にも余韻が残る今日も懐かし春の味

四季の俳句(題 当季雑詠)

予科練の碑銘の天蓋桜咲く
かはたれのかそけき音や椿落つ
同胞を撃つミヤンマーに春もなし
鶯と交わす挨拶口笛で
朝日浴び破れ障子が目立つ春
春光がミシン踏む背に暖かく
花壇の菜の花そだけがあかるくて
芽吹初む楡の梢に小鳥の巢
繕いを重ね重ねしつばめの巢
桜狩り憂き事すべて風に乗せ
春服を装いて口尖らせり
思案なく吹かれただ立つ葱の花

- 山崎笑子
- 篠原美千代
- 石戸律華
- 高橋一步
- 沼壽朋香
- 上野八千代
- 井戸賀蘇道
- 塚本夏雲
- 木村幸子
- 酒川夢花
- 田島草実
- 増尾青蓮
- 関根秀子
- 小園江久美
- 飯塚筑風
- 長谷川悦子
- 伊藤葉子
- 山崎泰弘
- 門脇悠美
- 山岸錦洋
- (五十音順)
- 青野安佐子
- 石毛恵美子
- 市川紀行
- 海道民子
- 木澤はしめ
- 小林美佐恵
- 高柳幸子
- 田島早苗
- 中島輝子
- 長田敏笑
- 増尾尚子
- 松本秀子

